

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 東棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①清潔ケア・・・午前中に全員のボトル洗浄を行い下のケアをしている。その他排便時に行う。入浴以外の日は必ず足浴を行っている。(輪になって歌を唄い心身共にコミュニケーションを図っている。)</p> <p>②手作り料理・・・手作り料理を利用者様と職員と一緒に同じものを載っている。利用者様が毎日の食事をおいしく摂取できることを願っている。</p> <p>③手足運動・・・1日3回食前に手足運動とお口の体操を行っている。下肢筋力の維持の為、毎日ボール蹴りを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に掲げている「その人らしく」や「自分らしく」の意味を職員全員で考え、意見を出し合いながらケアに努めている。利用者への声掛けをまめに言い、利用者へ寄り添いコミュニケーションを図り、利用者の日常生活動作(ADL)を掴んでいる。事業所設立より、入浴日以外の日にはぬるま湯をペットボトルに入れた足浴、陰部の洗浄をしている。食事は、手づくり料理を提供するなかで食形態を5種類用意して、利用者に合わせて用意している。メニューは利用者の希望を取りながら、調理専門の職員が考え、職員と利用者と同じ食事でおしゃべりしながら卓を囲みながら、嚥下しているか食事の様子を観察し支援につなげている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000259		
法人名	加納商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうあい 西棟		
所在地	群馬県富岡市中高瀬61-5		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①清潔ケア・・・午前中に全員のボトル洗浄を行っている。その他排便時に行く。入浴以外の日は必ず足浴を行い、輪になって歌を唄い心身共にコミュニケーションを図っている。</p> <p>②手作り料理・・・手作り料理を利用者様と職員が同じものを載している。利用者様の摂取形態別に調理して提供している。利用者様が毎日の食事を美味しく摂取できることを願っている。</p> <p>③手足運動・・・一日3回食前に手足運動とお口の体操を行っている。脳トレとして職員手作りのパズルを利用者様みんなで行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続けることの意義を重く受け止め、その人らしく暮らして行けるよう支援して行くために、理念をもう1度職員で振り返るようにしている。	理念は、玄関やフロアー、会議室に掲示している。3ヶ月に1回の全体会議で唱和をしており、日々の業務の中で職員の口調等について気づいたことを注意するなかで、理念を振り返ることの大切さを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみ収集所の掃除当番、近所の方とあいさつを交わしている。コロナ禍の為今のところお付き合いは遠慮している。	事業所を知って理解してもらうため、「ゆうあい新聞」を近隣に配布している。自治会に加入して、コロナ禍前は、地域のイベントには声をかけてもらったり、ハーモニカや太極拳のボランティアの受け入れをしたりしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で伝えながら民生委員、区長などと困っている方の相談にお互いに連携を活かしている。グループホームへ入居できる方がいれば紹介して頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で現状の変化や様子などを取り上げ、重度化しているなど、外出もままならない様子を知って頂き、相談して協力を得ている。	会議は年6回開催しており、会議では栄養士や薬剤師の講演を企画しているが、家族の参加は少ない。運営推進会議の会議録は、参加者に渡している。また、会議の委員である家族代表の選任を検討しているところである。	参加できない会議の委員に会議内容の情報を共有することなどとおわせて、参加メンバーが増えることにつながる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の運営推進会議の参加、ホーム側から包括支援センター主催の会議に毎回参加して連携を深めている。	毎月、空室状況について伝え、市のホームページに掲載されている。その他、情報交換、相談が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険な行為の方は、安全の為に家族に説明し、同意書を得て最低限の拘束を行う事もある。以前参加した研修内容を参考に具体的な行為を正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	市の資料をもとに全体会議で、拘束についての研修会を実施している。過去一年以内に、やむを得ず手作りの帯状のもので車椅子に固定抑制した経緯はあったが、早期解除にむけて工夫し解除した事例もあり、拘束しない意識で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティングで利用者の状態を確認して、介護者自身を追い込まない様、悩みを共有しながら虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて相談に乗ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項等々の説明を充分に行いさまざまな細分の疑問点にもこたえる旨を伝え理解を得て契約を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から些細なことでもお伝えし、気軽に何でも相談して頂ける環境作りをしている。	家族より利用者の頻回な電話連絡について相談があり、電話の使用について制限する工夫をしたり、本人の話を傾聴したりして電話連絡の頻度を少なくするようにし、家族にも取り組みを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼休みのミーティングで出た意見を上に繋げて、施設長・管理者・ケアマネなどで内容の検討を行っている。	職員会議は職員間で率直な意見交換が行われることが望ましいと考えており、話題提供にとどまらず解決にむけた検討が行われる会議となるよう改善したいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	水準を決める際には評価基準を基に職員個々の努力を把握して、それに見合う待遇を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員はベテラン職員と組んで研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来所して頂き、アセスメントを行い納得の行くまで相談を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談で時間をかけて相手の要望を受けている。ホームの内容も伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	書類を用意してあり、その時どうするかまで主治医の意見もふまえ、さまざまなサービスを伝えている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面や本人との会話の中から職員が利用者様に教えてもらうことが多く、笑いのある日々になるよう共に支えあう関係作りを構築している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活・体調など、ホーム便りや一筆箋などで伝えている。体調の変化などその都度連絡して、共に支える関係を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、家族・友人・知人の訪問は歓迎しており場所や時間を設定し双方がマスクを着用して面会をしてもらっている。	コロナ禍となり、感染対策をとり面会方法も変わるなかで、家族には、気候の変わり目に衣類を届けてもらうなど面会の機会を途切れないようにしている。これまでの馴染みの理容師が定期的に理髪を行っている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方やそれぞれの状態の把握を行い、会う者同士の会話に孤立しないよう皆と和を持ち、関係を築けるよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の家族はサービスの終了後の不安を強く持っています。よく相談を行い、いつでも支援のお手伝いをできることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や本人との会話の中から本人の思いや意向を把握して、その方に合った生活に近づけるよう支援している。	意志疎通ができる方が多いので、コミュニケーションをとるなかで、お墓参りや自宅に帰るなど、本人が納得できるように家族と連絡をとりながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの背景をアセスメントし、ケアプランに活かしてサービスに繋いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態、言動を見ながらその方に合った環境を作るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日々の関わりのなかで思いや意見を聞き、ミーティングの中で利用者様の変化に気づき、意見を出し合い利用者本位の介護計画を作成している。	介護記録は、日々実践している内容を記録している。ケアマネージャーは、入居者・家族の思いを確認し、職員の意見を聞き、3ヶ月に1回はモニタリングを実施して、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に基づいた日々の実践、その記録が介護記録に記載されることにより、それがモニタリングにつながるなど、一貫した記録の流れとなることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの日常を記録し、記入している。引き継ぎを行い、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、主治医とも相談しながら、既存のサービス以外に生まれるニーズには、最大限考えて話し合い、今必要なことに繋げるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや消防訓練を運営推進委員会等で協力しながら行っていたが、コロナ禍で様子をみていた。これからは少しずつ再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に要望を聞いて疾患の内容により、それぞれのかかりつけ医を受診している。ホームでの主治医の紹介もさせて頂いている。	入居時、かかりつけ医について家族の要望を確認して対応している。毎週看護師が4時間かけて健康チェックを行い、医師の診察が毎月1回行われている。状態に変化が生じた時は、家族に連絡し事業所が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師1名と職員の協働で利用者を支えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に様子を伺い、一筆箋などでご本人を励ましながらかかりつけ医とも相談して早期退院に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に説明し方針の統一を図っている。主治医、家族や職員等で連携を図りながら、状況の変化を伝え本人家族の意向を受け止め、可能な限りホームで支援する。	入居時に、家族と医師を含めて終末期のケアについて話し合いを行っている。看取りには、訪問看護を利用しており実績もあるが、職員における看取りの研修は行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアル作成をして職員で共有している。すべての職員ではないが、救急救命の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い全員参加で避難場所、消火器設置場所の確認を行っている。推進会議に委員さんに声掛けをして参加をお願いしている。今年は秋に出来たら行いたい。	区長には災害時の協力を依頼しているが、区長が交代になるので、関係づくりとあわせて、文章化して依頼することで継続して協力いただけるようにしたいと考えている。近隣の火事を経験し、訓練・マニュアルに沿った行動の大切さ感じている。3日以上の缶詰、水を常備している。	災害時の地域の協力体制について、さらなる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉掛けには最前の注意を払っている。記録等の個人情報の取扱いに関しては、秘密保持の徹底に努めている。	一人ひとりのプライバシーを守ることを大切にしている。呼び名は、本人の希望に沿って呼びかけ、入浴時や排泄時の声かけは羞恥心に配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何々ができますか。これはどうでしょう。やってみますか。などの本人に合った声掛けで自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが抱えていることを大事に、その日の体調に合わせて1日を過ごせる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、本人と相談しながら見出しなみやお気に入りの服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを分かり、柔らかく呑み込みのよい食事を用意している。お手伝いの出来る方にはできる範囲内でしてもらっている。	調理専門職員がメニューを考え食事は全て手作りで、食事形態は5種類あり、入居者に合わせた提供をしている。入居者と共に食器を拭いたり、皮むきをしたり等、共同作業を行うことで食への意識を高める支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方、水分摂取量の少なめな方には必ず職員が隣席にて支援している。食事でエンシュアリキッドや豆乳、牛乳を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアを必ず行っている。虫歯、入れ歯、噛み合わせなどの支援を行っている。入れ歯は外して本人、または職員が洗い、口腔内をスポンジブラで汚れを拭き取っている。入れ歯はポリデント洗浄週3回おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記入して一人ひとりのパターンを把握しながら自立に向けた支援をしている。	職員の声掛けや時間でのトイレ誘導を行い、夜おむつ使用の利用者がトイレで排泄できるようになり、布パンツで過ごせるようになった事例もある。退院後は、日常生活動作が落ちやすいため、職員の誘導でトイレでの排泄支援を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を確認しながら、野菜を中心に栄養バランスを考え、運動も加え支援している。頑固な便秘には主治医と相談しながら支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、体調など本人の希望により曜日の配慮をしている。入浴拒否のある時は、状態を見ながら声掛けをして入浴を促している。	週2回の入浴とし、汚れてしまった場合には陰部洗浄を行い、清潔保持に努めている。入浴剤を入れ、「いい湯だな」と唄うこともあり、職員との会話も弾むなど、心地よい時間が過ごせるようにしている。拒否する方には、脱衣所に移動し着脱することで気持ちの変化につなげ、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動的な生活の支援、心地よい室温で午睡をして頂き、日光にて布団を温めて熟眠が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を理解しており、処方の変ったときは、職員連絡帳に記載して全員に周知し、副作用等含め入居者の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の背景のアセスメントなどで生活歴を見て、出来ることを支援する。得意分野、苦手な部分を見て声掛けを行い支援している。(塗り絵の好きな方、スポーツ観戦の好きな方、洗濯たみを出来る方、毎日カレンダーをめくってくれる方)の支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	晴れた日に散歩をしたり、庭に出て花の鑑賞を行う。定期的に受診の支援をしている。	ベランダに出ると、軒下に木製のベンチが置かれ、陽当りの良い時はそこに腰かけて空気浴を行ったり、談笑して過ごしたりする場面もある。また、娘や嫁の訪問の時に近くへ散歩したり、家族と受診に行ったり、外出の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はありませんが、本人の希望の物の買い物は変わりに職員が行い、明細は立替にして家族に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用してもらっている。年賀状を書き家族に送っている。月1回利用者様の様子を手紙でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を丁寧に行い、美しく飾った花など清潔感あふれた玄関、ホール、季節を感じてもらえる庭、心地よく過ごせるよう工夫している。	共用スペースで過ごす時間が多く、ソファを設置して、歌番組を見たりして過ごしている。共用スペースには、日差しが入り明るく、花が飾られている。玄関の清掃は職員が行い、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の合う利用者同士の若いころの話が盛り上がるような支援を行っている。庭の花を花瓶に飾り、季節ごとに楽しみながら過ごせるよう工夫している。春にはベンチに座り、日差しをいっぱい浴びる時間を楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物品を使用してもらい、家族の写真や花、カレンダーを飾り、心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	居室のベッド・小タンスとも事業所で提供し、壁には家族写真やカレンダーがかけられ、テレビなど思い思いのものが置かれている。居室の入り口には色違いの編み込んだ人形が下げられ、居室の目印としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、ホールと区別してあり、分かりやすく自由に行き来出来るよう工夫している。		